

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

三重県 名張市

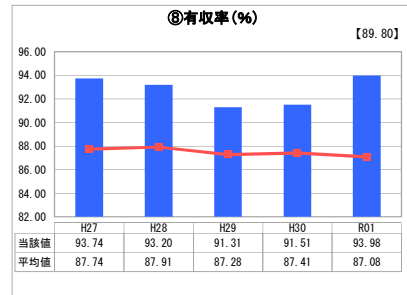
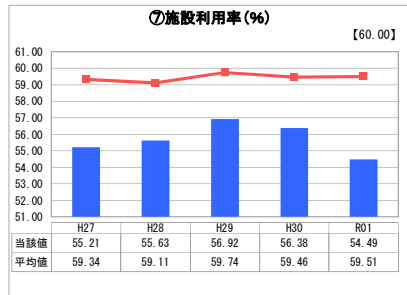
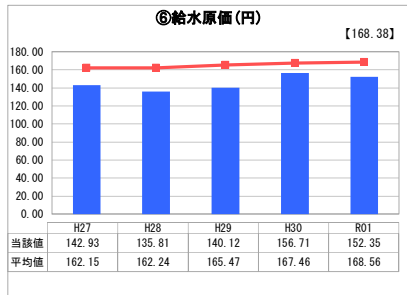
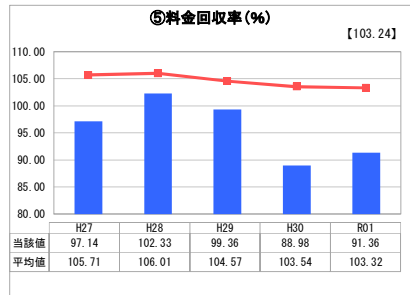
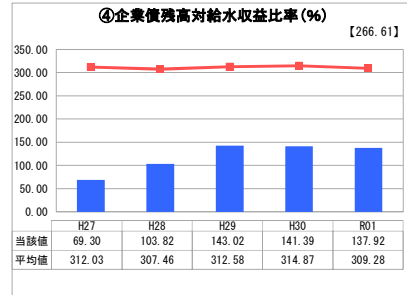
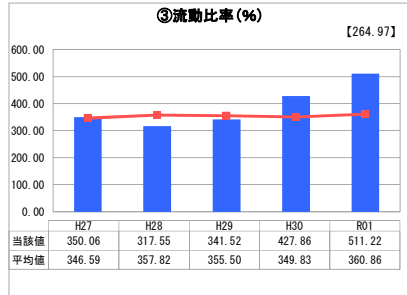
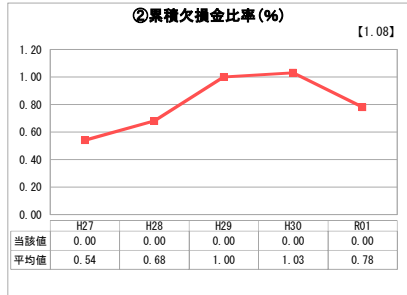
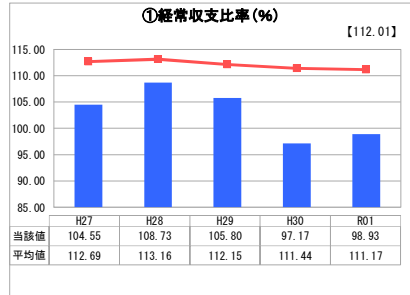
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	88.79	99.63	2,420	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
78,398	129.77	604.13
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
77,612	51.16	1,517.04

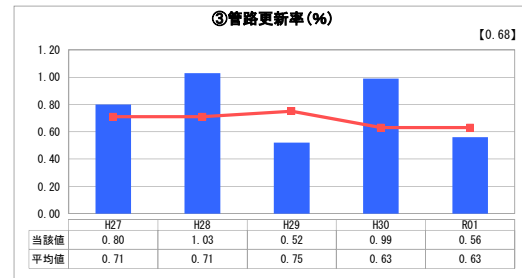
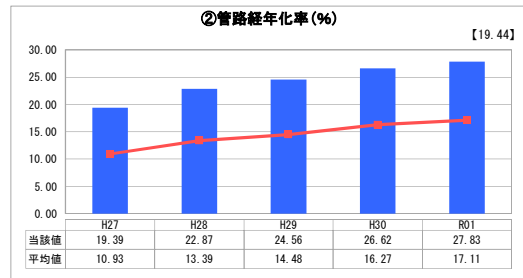
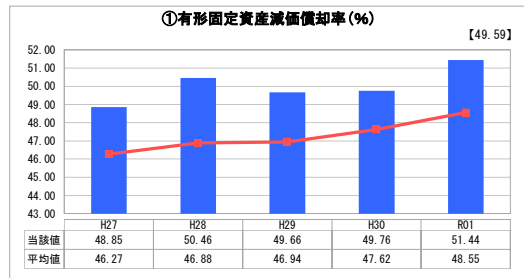
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、H26年度からH29年度に実施した浄水場施設の機械電気設備の大規模更新により、H30年度から減価償却費や企業債支払利息など経常費用が増大し100%を下回っています。  
 ②累積欠損金は発生していません。  
 ③短期的な債務に対する支払能力を表す流動比率は、類似団体の平均値を上回っており、十分な現金等がある状況を示しています。  
 ④企業債残高の規模を表す指標である企業債残高対給水収益率は、大規模更新工事の財源としてH27年度からH29年度にかけ起債しているため増加傾向となっているものの、H30年度以降は新規起債を発行していないため減少しており、類似団体より低い数値となっています。  
 ⑤料金回収率は100%を下回っており、給水に係る費用を給水収益で賄えていない状況となっており、改善していく必要があります。  
 ⑥有収水量（料金収入の対象となった水量）1m<sup>3</sup>あたり、どれだけ費用がかかっているかを表す給水原価は、支払利息等が少いため、類似団体より低くなっています。  
 ⑦施設利用率は、節水や人口減少により配水量は減少傾向であり、給水能力に余裕がある状況となっています。  
 ⑧施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標である有収率は、計画的に漏水調査並びに老朽管の更新を進めており、類似団体と比べ高い数値となっています。

### 2. 老朽化の状況について

①R1年度の有形固定資産減価償却率は、51.44%であり、保有資産が法定耐用年数の半分以上を経過していることを示しています。類似団体と比べ若干高い数値となっています。  
 ②法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す管路経年化率のR1年度の数値は、27.83%と類似団体に比べ高めです。法定耐用年数を超えた管路を直ちにすべて更新する必要はないものの、数値は上昇傾向にあります。  
 ③名張市水道ビジョンに基づき管路の更新・耐震化を推進しています。R1年度の管路更新率は0.56%であり、類似団体と比べ低い数値となっています。経年化率が高まっていることから更新投資の必要性は増えています。

### 全体総括

現在、平成23年度から令和2年度を計画期間とする名張市水道ビジョンに基づき、安全で安定した水道水が供給できるよう老朽化施設・老朽管の更新や耐震化に取り組んでいます。  
 今後は、老朽化施設の更新需要はますます増加していく中、人口減少や節水技術の進展により、給水量は減少していくものと想定されます。  
 こうした状況の中、令和3年度から令和12年度を計画期間とする次期水道ビジョンの策定を進め、長期的な視点のもと、水道料金の適正化を図るとともに企業債も活用しながら、持続可能な事業運営を実施していきます。